

令和7年度 宇都宮市立明保小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康でたくましく，確かな学力と豊かな人間性を持ち，ともに支え合いながら変化する社会を主体的に生き抜く児童の育成。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・健康でたくましい子
- ・進んで考え最後までやりぬく子
- ・思いやりがあり誰とでも仲良くする子
- ・ふるさとの人や自然を大切にする子

《合い言葉：元気・やる気・勇気・思いやり》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 学びしっかり やさしさいっぱい だれもが輝く明保小」を目指し，家庭・地域の信頼と協力のもと，誰もが夢や希望を胸に喜びとやりがいをもって生き生きと生活し，成長できる学校を創る。

- 児童が意欲的に取り組む教育活動を展開し，「知・徳・体」の調和の取れた力強く生き抜く力を養う。
- 教職員が，人権尊重を基盤に，チームの一員としてやりがいを持ち専門性を磨き，教育に邁進することにより，保護者や地域からの信頼を得る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) すべての児童が安心して明るく学校生活が送れるよう，環境を整え，目指す児童像実現に向けて児童の成長に資する取組の充実を図る。
- (2) 「がんばった」「嬉しい」「感動した」等の体験により，自己肯定感・自己有用感や豊かな心を育み将来への夢が描けるよう，教育活動の質を高め，認め励ます教育を推進する。
- (3) 学業指導を基盤に，学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け，思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- (4) 児童の人権を尊重し，教育的ニーズを踏まえた個に応じた指導により，児童・保護者との良好な人間関係を築き信頼される学校づくりを進める。
- (5) 教職員が倫理観と使命感を持ち，資質・能力向上を高めるよう研鑽を積むとともに，校務の重点化・焦点化を推進し，やりがいを持ち，児童と向き合う時間の充実を図る。
- (6) 支えてくれる方々に感謝し，郷土を愛する心を養えるよう，宮の原地域学校園，魅力ある学校づくり地域協議会等との連携により，ふれあい活動等の充実を図る。

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

心豊かで輝く子供の育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

【重点課題】

- ★基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（自ら学ぶ児童・生徒の育成）【学力向上部会】
- ★思いやりを高め規範意識の向上を図る。【学校生活適応支援部会】
- ★継続した筋力向上をめざし，健康で安全な生活を営ませる。【健康・体力・食育促進部会】
- ★小中および地域の交流促進を目指し，情報共有化を図る。【交流連携促進部会】
- ★学校事務の効率化・平準化を図り，学校づくりを支援する。【地域学校園事務室部会】

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係所法令や学習指導要領，とちぎ教育ビジョン 2025，第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画・学校教育スタンダード等に則し，本校教育目標の実現に向けて編成する。
- (2) カリキュラム・マネジメントの視点に立ち，思考力・判断力・表現力等と問題解決能力を高めるために，各教科・各領域等の関連を図った教育活動を展開する。
- (3) 創立150年の歴史と伝統を踏まえ，学校・地域・児童の実態を適切に把握し，特色ある教育課程を編成する。
- (4) 学校教育活動全体を通じた組織的なPDCAサイクルの活性化により教育課程の実施状況を評価し，必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく。
- (5) 教育活動実施時数は，宇都宮市小中一貫カリキュラムを基準として編成し，1年生は安全上2年生と同様に，予備時数は基礎的・基本的内容の徹底（国・算）を中心に計画的に運用する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・ 児童一人一人のよさを伸ばす教育の実践と誠実な行動により、信頼される教職員集団であり続けるために努力する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTを効果的に活用するなど、質の高い授業を提供できるよう、校内研修並びにOJTによる指導力向上とチーム明保としての同僚性の強化を図る。
- ・ 地域とともにある学校づくりを具現化するために、PTAや地域人材、大学・団体等の教育資源を積極的に活用した教育の充実により、特色ある学校づくりを推進する。
- ・ 教職員が健康で働きがいを持ち、質の高い教育が持続できるように、働き方改革を推進し、業務の適正化・効率化を図る。

(2) 学習指導

- ・ 「宇都宮モデル」の活用により、学習の目標を児童と共有し、課題にじっくり取り組み学び合う活動を保障して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。また、「考えるための道具箱」（比較する・分類する・つなげる・多面的に見る・理由付ける等）の活用による思考力・判断力等を育成する。
- ・ 令和2～4年度に実施してきた話し合い活動の充実を継続しながら、自分の考えを書く力を向上させる。
- ・ ねらいを明確にした実験・観察・体験・調査・製作・実習等による実感を伴った学びを充実させる。
- 「明保小学習スタンダード」に基づいた基本的な学習態度の指導と互いに認め合う児童の育成により、学びに向かう集団を作る。
- ・ 1人1台端末を学習のねらい達成ために効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図った授業づくりを実施する。
- ・ 個に応じた指導の充実を図る。（「カスタネット通信」の活用）
- ・ 朝の学習や家庭学習の充実により基礎・基本の定着を図る。
- ・ 夢や目標を持ち自己実現に向け努力する態度を育てるために、キャリア教育を推進する。

(3) 児童生徒指導

- ・ 多面的・多角的に考える道徳科の授業を核として、異年齢児童や高齢者等、様々な人との関わりふれあう体験活動や読書活動を推進して豊かな心を育む。
- 「明保小のよい子」の徹底により、規範意識を醸成し基本的な生活習慣を確立する。

今年度の重点「毎日めざそう5つ☆」

☆あいさつ・返事 ☆名札 ☆くつ揃え ☆心が温かくなる言葉かけ ☆話の聞き方

- 自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図る。
- 一人一人が大切にされ、いじめゼロの実現と不登校を生まない温かい学級・学年風土を醸成する。（情報共有、教育相談、Q-U調査の活用、SCとの連携）

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- 運動量の多い教科体育の充実と各種検定による体力と運動能力の向上を図る。
- ・ 望ましい食習慣の形成と、日常の保健指導（体温計測、歯磨き、手洗い・うがい）の徹底により、健康を管理する能力を育成する。
- ・ 自ら仕事を見つけ協力して働く清掃指導や学校に役立つ活動を通して、自己有用感と公共心を育成する。
- ・ 安全教育・安全指導を推進し、自他の命を守る判断力と行動力を身に付けさせる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～B4は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡大 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 該当箇所^に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 (昨年度と比べて5ポイント以上の上下に↑↓)(青・赤塗りつぶし) 学校全体の課題と思われるものに黄色塗りつぶし(80未満)								
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①児童が発言したり, 考えを友達と話し合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。</p> <p>②課題解決のために必要な情報を収集したり, 選択したりする活動を丁寧に支援する。</p> <p>③単元全体を見通して, <u>問題解決型の授業を積極的に取り入れ, 児童が主体的に取り組めるようにする。</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 398 1469 499"> <tr><td>児童</td><td>90.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>82.1</td></tr> </table> <p>1人1台端末や図書資料を活用して, 話し合ったり学び合ったりする学習が実施できた。</p> <p>【次年度の方針】 児童が, 主体的に問題解決型の学習に取り組めるよう, 場の設定や支援の在り方を工夫していく。</p>	児童	90.5	教職員	100	保護者	82.1		
児童	90.5											
教職員	100											
保護者	82.1											
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上</p>	<p>①エンカウンターやSSTを取り入れ, <u>認め励ます指導を推進し, 友達に優しく接することができるようにする。</u></p> <p>②<u>道徳の時間を核として, 教材文の人物の行動や心情から思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を意図的に設定する。</u></p> <p>③<u>異学年交流や縦割り班活動を実施し, 思いやりの心を育む。</u></p> <p>※地域の方とのふれあい活動はR7実施していないため, ③から抜きました。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 745 1469 880"> <tr><td>児童</td><td>92.2</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>93.8</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>92.9</td></tr> </table> <p>児童のよさを積極的に認める声掛けを行った。道徳科の授業をはじめ, 学習全体を通して, 他者との関りを意識した指導を行った。軽い気持ちで言葉を発したり, 相手の気持ちを考えずに発言したりし, 相手を傷つけていることがあった。</p> <p>【次年度の方針】 ①～③を継続する。①②はいじめゼロ強調月間や人権週間等の期間に, 学校全体で実施できるように計画する。</p>	児童	92.2	教職員	100	保護者	93.8	地域住民	92.9
児童	92.2											
教職員	100											
保護者	93.8											
地域住民	92.9											
	<p>A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者肯定割合 85%以上</p>	<p>①学習や行事等で事前に目標を設定する場を設け, 実践後に振り返りを行わせ, 努力の過程を認め, 具体的なよさを称賛していく。</p> <p>②目標に向かって取り組む姿勢を児童相互が認め合い, 励まし合えるよう指導する。</p> <p>③学習の見通しをもたせ, 粘り強く継続的に取り組ませることで, 成果を実感できるようにする。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 1249 1469 1350"> <tr><td>児童</td><td>88.9</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>96.6 ↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>79.0</td></tr> </table> <p>児童が見通しをもち主体的に活動できるように, 粘り強く指導を続けた。適切な評価をし, 主体的に振り返る場の醸成に努めた。</p> <p>【次年度の方針】 保護者の実感が得られるように, 学校での児童の様子を懇談や授業参観等で伝える工夫をしていく。</p>	児童	88.9	教職員	96.6 ↑	保護者	79.0		
児童	88.9											
教職員	96.6 ↑											
保護者	79.0											
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上</p>	<p>①避難訓練や交通安全教室などを通して, 安全教育を強化するとともに, 「明保小のよい子」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。</p> <p>②体育や特別活動において安全に気を付けた生活や健康に関する授業を通して, 日常の健康管理に興味をもたせ, 健康的な生活が送れるような実践的態度を育てる。</p> <p>③食や健康について関連のある題材や学級活動で, 学校栄養士や養護教諭と一緒に授業を考え, 専門的な見方や考え方に触れさせ, 理解を深める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 1664 1469 1798"> <tr><td>児童</td><td>91.8</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>96.6 ↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>87.3</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr> </table> <p>各分野で計画的に健康・安全面の指導をしたことの効果があった。また, 随時「明保小のよい子」の意識付けを行った。</p> <p>例) 体育委員会による1分間体操 保健委員会による呼びかけなど</p> <p>【次年度の方針】 児童の発達の段階に合わせた指導を</p>	児童	91.8	教職員	96.6 ↑	保護者	87.3	地域住民	100
児童	91.8											
教職員	96.6 ↑											
保護者	87.3											
地域住民	100											

			計画的に行っていくとともに、共通実践に努める。						
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①教育相談アンケート等を活用し、居がいのある学級経営に努めるとともに、学級活動の充実を図り、自己肯定感や自己有用感を高める。 ②縦割り班活動やクラブ、委員会活動をとおり、友達のよさを認め合うとともに、協力して取組めた心地よさを味わえるよう指導する。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>92.0</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> </table> 児童は、②や学級内での活動で、活躍したり成功したりする機会があり、そのことが自己肯定感や有用感に繋がっている。特に、係や当番活動においては、互いに協力し学校生活をよりよくしようとする意識が高まっている。 また、学級活動では、互いをよく知る場や友達との関りを考える時間を設定したことで、互いを認め合える学級づくりに繋がった。 【次年度の方針】 日々の生活や学級活動において、互いのよさに気づき、認め合うことができる場を設定する。さらに、そのよさを伝え合いながら、自分の成長が実感できるように支援していく。	児童	92.0	教職員	100.0		
児童	92.0								
教職員	100.0								
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①英語を使っての学習活動をとおり、伝え合う楽しさや喜びを十分味わわせ、コミュニケーション力が向上するようにする。 ②自分の思いや考えを伝え合う場を授業の中で意図的に設定するとともに、教材・教具の工夫を行い、外国語活動・外国語科の充実を図る。 ③ALTと連携し、授業の充実を図りながら、様々なコミュニケーションの方法を取り入れていく。	A 【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>84.7</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>93.1</td></tr> </table> 児童は、授業の中では積極的にALTと英語でコミュニケーションを図る姿が見られた。友達とのやり取りも英語に親しみながら、伝え合うことができた。 【次年度の方針】 簡単な英語表現を繰り返し行い、英語に慣れ親しむ素地をつくる。ALTと連携し、授業の中でなく、休み時間など様々な場面で交流したり、自分の思いや考えを伝え合ったりする等、コミュニケーションの場を意図的に設定していく。	児童	84.7	教職員	93.1		
児童	84.7								
教職員	93.1								
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者肯定割合 85%以上	①「宇都宮学（3年以上）」において、宇都宮の良さについて学習するだけでなく、宇都宮市に関連する資料やイベント等のお知らせを配付する際には、市の良さや特長を積極的に児童に伝える。 ②宇都宮学の内容を宇都宮学だよりや学年だより等で保護者に伝え、宇都宮の良さをともに理解できるように啓発していく。	A 【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>89.9</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>86.2</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>71.6</td></tr> </table> 食育や授業、掲示物等の取り組みが児童の意識の向上につながっていると考えられる。 【次年度の方針】 保護者への啓発を図るため、学期に一枚、学校での取組をお知らせする「宇都宮学だより」を保護者に配布する。委員会の活動でも宇都宮に関するクイズなどを取り入れ、多角的に情報を発信していく。	児童	89.9	教職員	86.2	保護者	71.6
児童	89.9								
教職員	86.2								
保護者	71.6								
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者肯定割合 85%以上	①1人1台端末や図書資料等を積極的・効果的に活用できるよう、各教科等の学習過程の中で意図的、計画的に指導していく。 ②教職員がICT機器や図書資料を授業の中で、使い分け効果的に使用することで、学習効果を高めていく。 ③授業参観で1人1台端末の活動場面を見てもらったり、家庭での利用を意図的に設定したりして、保護者の理解を深める。	A 【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>91.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>79.6</td></tr> </table> 高学年では、各教科等と関連して図書資料を活用できるようにしている。 保護者の目の前で活用していない可能性も考えられるため、授業参観の機会も活用する必要があると感じる。 【次年度の方針】 取組を引き続き実施するとともに、端末の活用の成果を個人懇談の際に提示したり、学年だより等で明示したりする	児童	91.5	教職員	100	保護者	79.6
児童	91.5								
教職員	100								
保護者	79.6								

			など、端末の活用が保護者により伝わるようにしていく。								
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①生活科や理科において植物の大切さを指導したり、社会科・総合的な学習の時間などにおいて、水や電気を大切にすることを指導したりする。また、「持続可能な社会」について学習内容と関連して扱い、関心を高める。 ②児童会活動(環境・掲示委員会など)の活動をとおし、児童の興味関心を高め、実践しようとする意欲を高めていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>92.2</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>86.2</td> </tr> </table> 各教科等の年間指導計画に基づいた指導を行うことで、関心が高まった。また、児童会活動との充実も図れた。 【次年度の方針】 カリキュラムマネジメントを基に、複数教科との関連を図り、より効果的かつ充実した活動にしていく。	児童	92.2	教職員	86.2				
児童	92.2										
教職員	86.2										
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上	①配慮を要する児童や個別の支援が必要な児童等について、打合せ時や職員会議において共通理解を図り、迅速で組織的な対応をする。 ②支援の方向を決める際は、ケース会議を開き組織的対応をするとともに、必要に応じてSCや専門機関との連携を図り、適切な支援ができるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>96.6</td> </tr> </table> 教職員は、打合せ等の場で共通認識、共通理解が図れていた。必要な事案にはケース会議を開き、組織的な対応をすることができた。 【次年度の方針】 校内の教員同士の連携をより密にし、適切な支援が行えるよう、関係機関と連携を図っていく。	教職員	96.6						
教職員	96.6										
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①「いじめゼロ集会・いじめゼロアンケート」等、いじめ防止に向けての児童の主体的な取組を支援する。また、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、学校の取組を発信していく。 ②いじめが許されない行為であることを教師が繰り返し指導し、各種アンケートやQ-Uの結果、教育相談等を生かし、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.5</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100</td> </tr> </table> アンケート調査をはじめ、早期発見・早期対応を心掛けることができた。各種通知や道徳科の授業などを通じ、児童への指導を行ったが、その取組は保護者の理解へ繋がらなかった。児童が納得する指導を心掛け、保護者に早期に通知することによって、理解を得られるようにする。 【次年度の方針】 ①②を継続するとともに、学年で指導をした内容を学年だよりに掲載するなど、情報の発信に取り組む。	児童	98.0	教職員	96.6	保護者	81.5	地域住民	100
児童	98.0										
教職員	96.6										
保護者	81.5										
地域住民	100										
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう学級経営を充実させる。 ②日々の観察をはじめ、教育相談週間によるアンケート調査や相談結果、Q-U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対して迅速かつ組織的に対応する。 ③教職員は、保護者と連携を図り状態を適切に把握し、個に応じた対応に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>87.6</td> </tr> </table> 保護者や児童と学校との繋がりを大切にし、連絡や対応を継続し、居場所を確保した。児童の様子を観察し、情報共有をすることで、よさを認めることができた。アンケートやQ-Uの活用で学級の様子を客観的に捉え、早めの対応を心掛けることができた。 【次年度の方針】 ①～③を継続し、不登校の未然防止、早期対応を心掛ける。特に長期休業前後を意識していく。学年便りに指導の様子や子供の活動の様子を掲載するなど、情報の発信に取り組む。	児童	96.4	教職員	100	保護者	87.6		
児童	96.4										
教職員	100										
保護者	87.6										
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。	①教師が、相談しやすい雰囲気や日常的に醸成し、児童一人一人の困り感に寄り添い、問題解決の支援に取り組む。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>93.1 ↓</td> </tr> </table>	児童	96.6	教職員	93.1 ↓				
児童	96.6										
教職員	93.1 ↓										

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>②学級経営の充実を図るとともに、学級活動をととして、望ましい集団づくりをし、明るく居がいのある雰囲気を醸成する。</p>	<table border="1" data-bbox="1102 114 1469 181"> <tr> <td>保護者</td> <td>85.9</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>92.9</td> </tr> </table> <p>一人一人の話をよく聞くなど、児童の心に寄り添った対応を行ってきた。それにより、児童が安心して教師に相談しながら、学校生活を送れるようになった。さらに、問題が起きたときには、互いの気持ちを伝え合い、自分たちで問題を解決できるようになった。</p> <p>【次年度の方針】 児童に寄り添い、一人一人を大切にしたい指導を行うなど、学級経営の充実を図る。</p>	保護者	85.9	地域住民	92.9				
保護者	85.9										
地域住民	92.9										
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>①「宇都宮モデル」の指導過程を活用した授業改善を行うことで、分かる授業を実現する。</p> <p>②ねらいの明確化・板書・発問の工夫、ノート指導の充実を図る。</p> <p>③1人1台端末を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 555 1469 651"> <tr> <td>児童</td> <td>96.8</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.3</td> </tr> </table> <p>「宇都宮モデル」の授業改善においては、校内研究授業やOJTの機会を生かして深めることができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、「宇都宮モデル」を基盤に授業力の向上に努める。さらに、授業における1人1台端末の活用について研究し、発達段階に応じたICT機器の活用を図る。また、低学年におけるノート指導を充実させる。中学年以降からノート、プリント、端末をバランスよく活用していく。</p>	児童	96.8	教職員	96.6	保護者	84.3		
児童	96.8										
教職員	96.6										
保護者	84.3										
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①学校の全教職員が同じ目標のもとに、情報を共有しながら、学校目標の実現に向けて、教育活動の充実を図る。</p> <p>②個々の役割を担うだけではなく、校務分掌等の垣根を越えて、互いに協力して取組めるよう、同僚性を発揮する。</p> <p>③関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 1059 1469 1093"> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>共通認識のもと学校目標の実現に向けた取り組みができた。同僚性を高め協力が図れた。学校の組織力の強化が図れた。</p> <p>【次年度の方針】 情報の共有を図り、学校目標の実現に取り組む。継続して同僚性を高める。学年組織だけでなく校務分掌ごとの組織力向上を図る。</p>	教職員	100						
教職員	100										
<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。</p> <p>②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直し・教育のDX化を行う。</p> <p>③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 1402 1469 1435"> <tr> <td>教職員</td> <td>96.6</td> </tr> </table> <p>効率的かつ計画的に業務の遂行が図れた。研修等を通してDX化が図れた。同僚性の高まりから、連携が図れた。</p> <p>【次年度の方針】 効率的な働き方改革を行う。各自のマネジメント力を高める。同僚性を高め、連携して課題解決に取り組む。</p>	教職員	96.6						
教職員	96.6										
<p>5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>①地域学校園の小中合同の「あいさつ運動」を年2回実施し充実を図る。</p> <p>②図書館や食育等、各種学校園だよりの発行等を行い、小中学校間の連携の様子を保護者、地域に伝える。</p> <p>③小中一貫各部会での活動内容を共有し、実践につなげる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1102 1686 1469 1816"> <tr> <td>児童</td> <td>93.7</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>93.1</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.3 ↑</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100 ↑</td> </tr> </table> <p>中学校と連携し、あいさつ運動を行うことができた。図書館だよりの発行ができた。また、中学校の学年だよりを掲示した。</p> <p>【次年度の方針】 各部会の活動の充実を図るために、年度当初の計画を立てる。4校の連携を図り、活動の様子を保護者や地域に伝え</p>	児童	93.7	教職員	93.1	保護者	81.3 ↑	地域住民	100 ↑
児童	93.7										
教職員	93.1										
保護者	81.3 ↑										
地域住民	100 ↑										

			る。運営委員会で活動の共有を行い、実践につなげる								
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①地域、企業等と連携・協力して行った教育活動を保護者・地域にも積極的にホームページや学年だより等で情報発信していく。 ②授業をねらいに合わせて、活動を充実させられるよう相手先と計画・連絡・調整していく。 ③生活科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、地域の施設や地域人材を活用した学習を積極的に行うとともに、地域学校協働活動推進員をおして、学校支援ボランティアの活用を図っていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>92.4</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>90.1</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>92.9 ↓</td></tr> </table> <p>地域の方々と関わる機会が増え、地域人材の活用や学校支援ボランティアの充実が図れた。 【次年度の方針】 学年による地域の方々と関わる機会の差をなくし、今年同様、様々な教科で地域の方と関わる機会を設けていく。</p>	児童	92.4	教職員	100	保護者	90.1	地域住民	92.9 ↓
児童	92.4										
教職員	100										
保護者	90.1										
地域住民	92.9 ↓										
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進			B								
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①毎月の安全点検を十分に行い、利用する人の安全な確保のため、補修、修繕を速やかに行う。 ②多くの方が来校する学校行事等では、危険予知を複数で行い、安全な環境づくりに努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>88.8</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>92.9 ↓</td></tr> </table> <p>安全点検を行い、適切に補修修繕が行えた。複数の目で危険予知を行い、環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 定期的な安全点検を確実にし、補修修繕を速やかに行う。個々の教職員が安全な環境づくりや整理整頓への意識をさらに高めていく。</p>	教職員	100	保護者	88.8	地域住民	92.9 ↓		
教職員	100										
保護者	88.8										
地域住民	92.9 ↓										
			B								
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①情報メディア担当を中心に、教職員がデジタルの活用の方法を共有し、効果的な場面で積極的に活用できるようにしていく。また、校内研修の成果を授業に生かすようにする。 ②ICT支援員と連携し、校務改善の方法を具体化していく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> </table> <p>数値目標は達成されている。授業力向上プロジェクトの成果もあり、教職員が各自ICTの活用を考え、取組を実施したことが要因であると考えられる。 【次年度の方針】 昨年の反省を生かし、今年度は組織的に系統立て、学年ブロック単位で同じようにICTの活用を実施できるようにした。取組の成果も蓄積し、どのような活用が有効であったか、全体で共有できたため更なる活用につながるように継続して実施していく。</p>	教職員	100						
教職員	100										
			A								
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①定期的なあいさつ強調週間を設けるとともに、日常的なあいさつや会釈など、あいさつの方法について随時指導する。よくできている児童を称賛し、意識化を図る。 ②地域学校園の「小中一貫あいさつ運動」や地域協議会と連携した「あいさつ運動週間」、安全見守りボランティアの日々の声掛け等を生かしながら、自然にあいさつができるようにしていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>89.9</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>96.6</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>82.7 ↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>92.9 ↑</td></tr> </table> <p>強調月間や生活目標、企画などにより意識付けがされていた。声が出ている児童をその場で認め、意欲を高めた。個人差が大きく、声量や態度面からも大人と児童の認識の差が出ている。 【次年度の方針】 あいさつ強調月間には、各クラス代表児童を参加したり、動画などを活用したりするなど、学校全体であいさつをすることの意識を高める。①②は継続し、児童があいさつに抵抗がなくなるように</p>	児童	89.9	教職員	96.6	保護者	82.7 ↑	地域住民	92.9 ↑
児童	89.9										
教職員	96.6										
保護者	82.7 ↑										
地域住民	92.9 ↑										
			B								

			していく。								
<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上</p>	<p>①「明保小のよい子」の徹底により、規範意識を醸成し基本的な生活習慣を確立する。また、教職員が指導の基準を同一にし、学校全体で取り組む。</p> <p>②「毎日めざそう5つ☆」(あいさつ・返事、名札、くつ揃え、心が温くなる言葉かけ、話の聞き方) 定着させるために、強化週間を設けたり、児童会や高学年が主体となって強化する活動を取り入れたりして、児童が意識的に取り組めるように工夫をする。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>91.8</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>96.6</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>87.8</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>92.9 ↓</td></tr> </table> <p>5つ☆を守れている児童が多い。それらを認めることで達成感を得ることができた。「明保小のよい子」により基準が明確になっている。安全面に関するきまりが守れていない様子も見られる。</p> <p>【次年度の方針】 ポスターなどで呼び掛けたり、明るい掲示物などを活用したりし、きまりを「見える化」する。コミュニケーションやマナーなどを学ぶ機会を設け、きまりを守る必要性やよさについて意識を高める。教職員が指導の基準を同一にし、学校全体で取り組む。</p>	児童	91.8	教職員	96.6	保護者	87.8	地域住民	92.9 ↓
児童	91.8										
教職員	96.6										
保護者	87.8										
地域住民	92.9 ↓										
<p>B3 児童は、自己肯定感・自己有用感を育てている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①自己肯定感や自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図り一人一人が自分のよさを捉えられるようにする。</p> <p>②学級や学校のために、進んでよい行いをしている児童を称賛したり、前向きな気持ちで役に立とうとしている児童を支援したりして、成長を実感できるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>79.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> </table> <p>教職員は自己肯定感や自己有用感を育む場づくりをしているが、児童の実感是不十分である。自分のよさに気付くことができていない児童も多い。</p> <p>【次年度の方針】 日常から褒める機会を増やし、些細なことでも分かりやすい言葉で児童のよさを伝える。さらに個人懇談等の機会に、保護者に児童のよさを伝え、学校と家庭とが連携して自己肯定感を育てていく。</p>	児童	79.5	教職員	100				
児童	79.5										
教職員	100										
<p>B4 児童は、授業等でめあてに向かって学び、振り返りを行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①授業で、めあてを明確に提示し、本時の活動の見通しをもたせるとともに、振り返りをさせることで、学びの実感を得られるようにする。</p> <p>②めあてを意識した、話し合い活動を重視し、主体的に課題解決できるようにするために観点を提示し、充実を図る。</p> <p>③1人1台端末を活用し、学びの充実と振り返りの累積を図っていく。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>84.9</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>67.6</td></tr> </table> <p>1人1台端末を活用した振り返りは実施しやすく、効果的であった。めあての提示や主体的に課題解決するための観点の提示については、より充実を図っていく。</p> <p>【次年度の方針】 振り返り観点を提示し、自分の振り返りや次時の学習意欲につながるようにする。発達段階に応じて ICT を活用して累積を図る。</p>	児童	84.9	教職員	100	保護者	67.6		
児童	84.9										
教職員	100										
保護者	67.6										
<p>B5 教職員は、校内研修やOJTを通して学び合っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①校内研修を行い、研修の目的を明確にし、授業力の向上を目指すことにより学び合う集団として向上できるようにする。</p> <p>②若手教員育成システムを活用したり、各校務分掌でチームを組んだりして、日常的にアドバイスができるようにする。OJTによる指導力向上とチーム明保としての同僚性の強化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100 ↑</td></tr> </table> <p>研究主任を中心に校内研修を行い、学び合う集団として高められた。若手育成システムを活用し、OJTによる指導力の向上が図れた。</p> <p>【次年度の方針】 新たな学校課題に向けて、年間を見通して研修計画を立て、各教職員の持つ得意分野を生かしながら、さらに充実した校内研修を行う。</p>	教職員	100 ↑						
教職員	100 ↑										

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・「宇都宮のよさ」については、授業や掲示物等で児童に浸透してきたが、保護者に伝わっていないことが課題である。
- ・めあてと振り返りを重視した「宇都宮モデル」の推進を図り、より児童が成長を実感できるように学校で統一した掲示物を作成できたので引き続き活用していきたい。
- ・同僚性を高めると共に、各自のマネジメント力を高めながら、指導の基準を共通理解し教職員が一貫して指導できるように組織力の向上を図る。
- ・配慮を要する児童について全職員で共通理解を図り、組織的な対応をすることができた。
- ・児童は、互いのよさに気づき、認め合うことができていますが、自分のよさには気づきにくいいため、学級経営の充実及び、保護者との連携を図りながら、自己肯定感・自己有用感を育む指導を継続していく。
- ・教職員が創意工夫を凝らし、児童と共に学びを進めていることについて、学校 HP や個人懇談、学年だより、学校だよりなど積極的に発信し、信頼を築いていく必要がある。
- ・望ましい健康習慣（運動・食・睡眠）を身に付けさせるには、地域・家庭の理解不足に課題がある。

7 学校関係者評価

- ・学校全体が活気に満ちている。児童が生き生きと生活し、子ども同志、先生との親頼が深いと感じている。授業で自ら考え、調べている姿勢が見受けられ、先生方の指導力の高さがうかがえる。今後共、子ども一人一人の特性を生かしてほしい。
- ・一年生も学校生活に慣れてきた。
- ・朝のあいさつも上手にできている。一つだけ気になっている事は登校時ふざけて歩いたりする生徒がいるので注意している。
- ・授業参観を見学し先生方のご努力に感動した。
- ・学校の行き帰り以外、外で会うと、子供たちから先にあいさつが返ってくる。とてもうれしく思う。
- ・タブレットでも検索できる活動は良い面と悪い面があると思う。今後、AI 時代に必要なのはわかるが、昔の授業が良かったこともある。
- ・先生の仕事内容については、軽減できるのなら良い。
- ・地域学習が充実していて良いと思う。消防で地層など、地域を知るはとても良いと思った。地域の専門の方のお話を聞ける機会があるのもっと良いのでは。
- ・駐車場が下校時に不足している。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 小中一貫教育の、児童、保護者、地域住民への周知に努める。
- ・各学年の発達段階に応じて、さらなる「うつのみや学」の充実を図る。
- ・挨拶の醸成については、児童自らが進んであいさつできるように家庭・地域と連携していく。
- ・学習の課題を解決する方法を児童自らが選択し、問題解決できるような授業づくりを行う。
- ・各教科・領域の学習効果を高めるために、今後も1人1台端末を効果的に活用させる。
- ・デジタルシティズンシップ教育を充実させ、ネットトラブル等から自分を守るようにする。
- ・特別活動や生活科・総合的な学習の時間の一層の充実を図る。
- ・基礎学力の向上を目指して、朝の学習、家庭学習、AIドリルの活用等を図る。
- ・各教科等を通して、書く活動を具体的に進める。